

ホームページ

中村 龍介

約十年前、妻が二度目の脳出血で入院してしまったことが契機となってHP（ホームページ）なるものに挑戦した。

当面の目的は、妻の状態を気遣ってくれる、親戚、友人、知人の皆さんに病院の妻の現状を「介護日記」の形で報告することにあつた。

ITにはズブの素人だった私が、大それた構想を抱いた裏には現役時代の経験が後押ししていた。

二十世紀も終わりに差し掛かって、日本にもIT化の波が押し寄せる。私の勤めていた会社でも社員全員にパソコンが配られ、社内の連絡は電話よりもメール優先で行われるようになった。同時に、社内専用のイントラネットなるものが開設され、トップ・マネジメントの経営方針の示達もネットで行われるようになる。

二〇〇一年六月、常務に昇進した私は、周囲に煽てられてイントラネットの片隅に「中村常務の部屋」を立ち上げて、そこに「若き技術者に贈る」というタイトルでコラムを書き始めた。会社のキャッチ・フレーズ『技術の翼と革新の心』を展開するには、若い技術者の自己本位ともいえる考え方に一石を投じる必要があるとして、十五回のシリーズで私の価値観を伝えた。

私はワードで原稿を書くだけ。後は若い社員が適当に編集してネットにアップロードしてくれる。サイトが掲載されると大きな反響を呼んだ。今まで口をきいたこともなかった若い社員からどんどんメールで意見が寄せられる。私は丁寧に返事を書いた。

このやり方は新しいコミュニケーションの技法として社内でも高い評価を得た。

引退後、これに味をしめて自分のHPを開設したわけだが、最初から難航する。原稿を書くまでは簡単だが、これをウェブ上にアップロードするのは容易ではなかった。

先ず、私のHPのスペースを提供してくれるプロバイダー

と契約して、私の原稿をファイルの形で転送する。プロバイダーは転送されたファイルを私のHPに掲載するのだが、転送自体が困難を極めた。市販の「ホームページビルダー」なるソフトを購入して、ガイドブックの通りやってみるが、なかなか上手く行かない。

紆余曲折の挙句、漸くHPらしくなるのに二年を費やした。そうになると、今度は面白くなつて、他のHPも作ってみたくなり、高校、大学の同窓会、異業種交流会、会社のOB会：と、次々に手を出していき、現在自分のものも含めて五つのHPを管理している。HPは正にライフワークとなつてしまつた。

昨年春、これまでのウィンドウズXPが使えなくなるというのでパソコンを新しくした。同時に、従来HPのプロバイダーをお願いしていたヤフー・ジオシティーズが突然サービスを中止するという。いわば、二重の危機がやってきたわけだ。対策として、ジオシティーズのような無料のプロバイダーを利用することを止め、独自のドメイン（ネット上の登録住所）を取得することにした。多少のレンタル料はかかるが、こうすると、目障りな広告が表示されることはなく、キレイな画面になる。これは新たな試みだ。

また、古いパソコンから新しい機種にデータを移し替えるのにも技術的な問題がある。とても私の手に負えない。

在宅で、プロの個別指導を受けることにした。ネットから適当な人を探して、メールでお願いした。やって来たM氏はさすがにプロ。数々の問題点は眼からウロコで解決していく。指導を受け始めて一年が経ち、何とか一人立ちしたようにみえた。が、先日、新たな問題が発生する。

M氏の指導で、これまでバラバラに管理していた五種類のHPを一元管理するようになったのだが、このファイル管理が、突然、反乱を起こしたのだ。

現象としては、妻の七回忌法要のアルバムに、全く関係のない同窓会の乾杯の写真が紛れ込んでくる。一方、同窓会のアルバムを開くと、乾杯の写真でなければならぬところに、我が家のネコが登場する。こうなると、もうパニック状態。

お助けマンのM氏にメールするしかない。出来るだけ詳細



に状況を説明し、問題の画面を添付して送る。
と、翌日には返事があり、解決方法が図入りで丁寧に説明されている。最後に一言「HP作成塾、未だに卒業できないようですね」とあった。
HPは実に奥が深い。七十歳を過ぎてこの調子だと卒業の目途は立たない。周囲が寝静まった深夜、一人、モニター画面を睨んで考え込む毎日である。

【二〇一五年三月記、原稿用紙約五枚、課題「卒業」】